

日本伝統芸能振興会

グラウンド歌舞伎

# 応挙の幽霊



&

# 棒しばり

2016年  
1月23日(土) 開演 午後3時  
(開場 午後2時30分)

会場 藤沢市民会館大ホール (〒251-0026 藤沢市鶴沼東8番1号)

料金 3500円(全席指定)

「応挙の幽霊」

甚 三…千川貴楽

幽 霊…花柳登貴太郎

若旦那…菊月喜千寿

「棒しばり」

大 名…菊月喜千寿

次郎冠者…一越和城 他

※部ご案内に掲載しております出演者に  
変更がございます。予めご了承ください。

【チケット販売】

藤沢市民会館

0466-232415

湘南台市民シアター 0466-451550  
チケットぴあ 0570-029999  
(コード447-772)

財団HP <http://f-mirai.jp> (Getii)

【チケット発売日】

2015年10月31日(土)午前9時

※但し、発売日当日の電話予約は午前11時から

■主催・問合せ

公益財団法人藤沢市みらい創造財団

芸術文化事業課 0466-281135

■後援

藤沢市・藤沢市教育委員会



応挙の幽霊イメージ

出演者

菊月喜千寿



千川貴楽



花柳登貴太朗



一越和城



「棒しばり」

初演は大正五年二月、東京市村座。狂言を歌舞伎舞踊に仕立てた、いわゆる松羽目もの。踊りの名手と云われた六代目菊五郎と七代目坂東三津五郎にあてはめて、岡村柿紅が書きおろした作品に、杵屋巳太郎(当時は三之介)が作曲。このコンビによる松羽目舞踊には、ほかに「身替座禅」「茶壺」「太刀盗人」など、今でも繰り返し上演される傑作が多い。

ところが二人はいろいろと工夫して酒倉の戸を開け、不由な体を助け合って酒を酌み交わし、上機嫌で歌ったり踊ったり…。大いに盛り上がりつつあるところへ主人がご帰還。二人は謝りながらほろ酔い気分で逃げまわります。

●大 名…太郎冠者、次郎冠者の主人。家来の二人がお酒を好きなのを知っており、留守中に飲まないように言い残して出かける。

●次郎冠者…家来。棒術の名手であり、主人からも頼りにされているもの、お酒が好き。

●太郎冠者…家来。次郎冠者と同じ主人に仕えている。次郎同様にお酒が好き。主人に対し、次郎冠者はお酒が好きで油断がならないので、隙を見て次郎を棒にくくりつけてしまおうと提案する。

「歌舞伎世話狂言 応挙の幽霊」

落語家鷲亭金升の作品を歌舞伎化した演目です。丸山応挙の贋作と知りながら市で安く2枚の幽霊画を仕入れてきた道具屋の甚三。内、片方の幽霊画を買取人のいり若旦那。若旦那は翌日に絵を引き取りに来てと言って、その場を後にします。一番嬉しいのは贋作を高値で売りつけることに成功した甚三。ところが、実はその絵には本物の幽霊

が入っていたのです。そうとは知らずその絵を看に晩酌を始める甚三。ふと誰もいないはずの彼の家で誰かの気配を感じます。と、そこには幽霊が！見ると掛け軸は空っぽに！しかもその幽霊は無類の酒好きで、飲めば飲むほどに人間臭さを出していくという、抱腹絶倒の演目です。歌舞伎というとし、分かりにくいというイメージを払拭させる演目です。

●甚 三…古道具屋を営む主人公。市で安いものを買っては掘り出し物として販売している。しかしながら、純粋な性格のキャラクターであり、掛け軸から出てきた幽霊に翻弄されてしまう。

●幽 霊…丸山応挙の描いた掛け軸に住み着いている幽霊。長い間倉の中で丸めて保管されていたことにイライラしていたところ、甚三によって外の世界へ出る事が出来た。幽霊といっても

とても可愛らしいキャラクターである。一方、無類の酒好きで、人間らしい側面を見せる。

●若旦那…骨董収集が趣味の悠々自適な生活を送る人物。以前甚三が江戸に来た際に生活面で彼の面倒を見ていた経緯があるとされる。そのため甚三はこの若旦那に対して頭が上がらない。

公益財団法人 藤沢市みらい創造財団 芸術文化事業課

〒251-0026 藤沢市鵠沼東8-1(藤沢市民会館内)

tel.0466-28-1135

※市民会館には駐車場はございません。奥田公園駐車場(有料)をご利用ください。  
なお、駐車場の台数には限りがございますのでなるべく公共交通機関をご利用ください。

<http://www.f-mirai.jp/arts/>

みらい創造財団

検索

JR・小田急・江ノ電  
藤沢駅南口下車 徒歩10分

